

平成28年日本地質学会北海道支部例会

日時：2016年6月11日（土）10:30～17:30

場所：北海道大学理学部5号館301室（5-301）

参加費：一般会員500円、非会員1000円、学生無料



10:30 開会のあいさつ

・ 個人講演会 10:40-16:10

10:40 - 11:00 沢田健・風呂田郷史・青柳治勲

「北日本周辺海域の新第三紀オーダーの古海洋環境変動の復元」

11:00 - 11:20 岡孝雄・小野哲也

「北海道東部，標津湿原の形成過程と高層湿原化の解明」

11:20 - 12:00 宮坂省吾

「サッポロを作った古河川と豊平川の成立について」 + 「サッポロ巡検の紹介」
(昼休み)

13:20 - 13:40 幹事会からの諸情報提供

13:40 - 14:00 仁科健二・松田義章・大鐘卓哉・高見雅三・竹内勝治・菅原慶郎
・松枝大治

「地質の日関連事業：市民巡検「ぶらり・小樽の地質と軟石建造物」の報告」

14:00 - 14:20 東豊土・加藤孝幸・和田恵治

「幸太郎石—高圧変成作用を受けた蛇紋岩関連オリストストローム」

14:20 - 14:40 加藤孝幸

「超苦鉄質岩から見た北海道中軸帯の東西断面」

14:40 - 15:00 前田仁一郎・谷内元・斎藤清克・中野雅子

「北海道，日高火成活動帯のかんらん石に富む斑れい岩中の spinel-hosted mineral inclusions」

15:00 - 15:20 前田仁一郎

「北海道総合地質学研究センターの設立について」
(休憩)

15:30 - 15:50 加瀬善洋・川上源太郎・仁科健二・林圭一・ト部厚志・高清水康博

「化学分析による津波堆積物の認定手法の有用性」

15:50 - 16:10 林圭一・加瀬善洋・川上源太郎・仁科健二

「津波堆積物中の有機質微化石の水平・垂直分布—現世アナログとしての 3.11 津波堆積物とその歴史津波認定への応用—」

・ 招待講演会 16:20-17:20

岩崎貴哉（東京大学地震研究所・教授）

「これまでの制御震源探査データの
再解析による日高衝突帯構造の新知見」



東大地震研究所HPより

17:20 閉会のあいさつ

問い合わせ先：北海道支部幹事 亀田純
(kameda@mail.sci.hokudi.ac.jp)